

令和2（2020）年度 第2回  
函館市企業局経営懇話会 資料

	ページ
令和3（2021）年度企業局各会計予算の概要について	1～3
函館市上下水道事業経営ビジョン進行管理ご意見に対する企業局の考え方	4～7
函館市交通事業経営ビジョン進行管理ご意見に対する企業局の考え方	8～10
函館市上下水道事業・交通事業経営ビジョンにおける主要施策以外のご意見・ご質問に対する企業局の考え方	11
主な指標の進捗状況	12

函 館 市 企 業 局

# 令和3(2021)年度企業局各会計予算の概要について

## 水道事業会計

### 業務の予定量

1	水道給水栓数	130,098 栓	(対前年度比 0.9 %減)
2	水道年間総配水量	31,463,000 m <sup>3</sup>	(対前年度比 1.8 %減)
3	水道一日平均給水量	86,200 m <sup>3</sup>	(対前年度比 1.8 %減)
4	温泉一日供給量	3,792 m <sup>3</sup>	(対前年度比 0.3 %減)
5	年間販売電力量	1,483,699 kWh	(対前年度比 0.4 %減)
6	主要な建設改良事業		

#### ○ 水道事業

赤川高区浄水場整備  
配水管

一式 3,422,707 千円

7,392 m

#### ○ 温泉事業

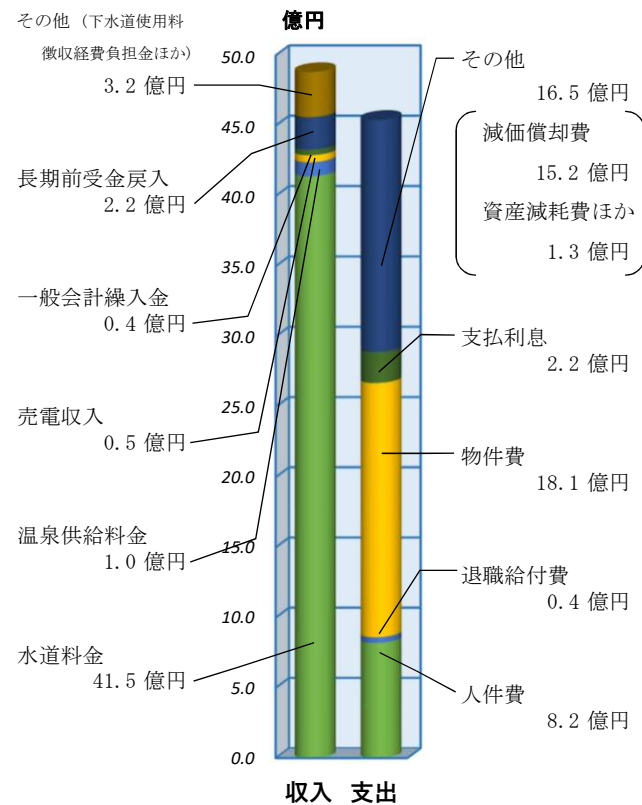
供給管

365 m 19,580 千円

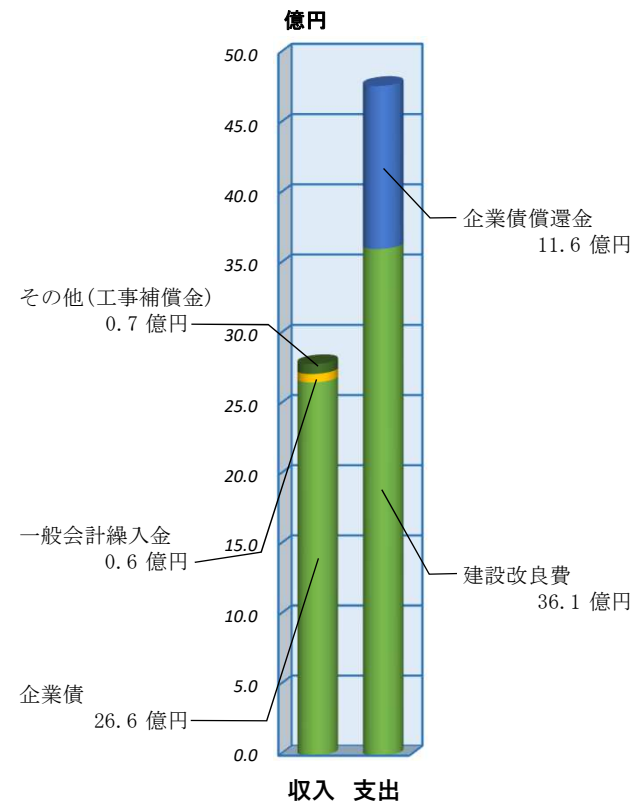
#### ○ その他

169,956 千円

収益的収入及び支出



資本的収入及び支出



収益的収入合計	48.8億円	資本的収入合計	27.9億円
収益的支出合計	45.4億円	資本的支出合計	47.7億円
差引(A)	3.4億円	差引(B)	△19.8億円
(純損益)	0.6億円)		
損益勘定留保資金(現金外費用等)(C)	13.9億円		
前年度末財源残額(D)		31.8億円	
当年度財源過不足額(E=A+B+C)		△2.5億円	
当年度末財源残額(F=D+E)		29.3億円	

### 経営ビジョンとの比較

(税込単位：百万円)

区分	R3経営ビジョン 財政計画(A)	R3当初予算 (B)	増減 (B)-(A)	
収益的収支	水道料金	4,158	4,155	△3
	温泉供給料金	83	96	13
	売電収入	56	55	△1
	一般会計繰入金	41	36	△5
	長期前受金戻入	179	226	47
	その他(下水道使用料徴収経費負担金ほか)	297	316	19
	収入計	4,815	4,884	69
	人件費	796	825	29
	退職給付費	99	42	△57
	物件費	1,818	1,812	△6
	支払利息	238	217	△21
	その他	1,643	1,647	4
	減価償却費	1,643	1,517	△126
	消費税等相当額			0
資産減耗費ほか		130	130	
支出計	4,595	4,543	△52	
損益	220	341	121	
資本的収支	企業債	1,441	2,656	1,215
	国庫補助金			0
	一般会計繰入金	46	61	15
	その他(工事補償金)	21	72	51
	収入計	1,507	2,789	1,282
	建設改良費	1,963	3,612	1,649
	企業債償還金	1,115	1,153	38
	その他			0
	支出計	3,078	4,765	1,687
	資本的収支不足額	△1,570	△1,976	△406
補てん財源	1,375	1,388	13	
当年度財源過不足額	24	△247	△271	
当年度累積財源残額	2,776	2,931	155	
当年度末企業債残高	21,174	19,200	△1,974	

(注)四捨五入の関係で、計と内訳とは必ずしも一致しません。

### 予定貸借対照表

令和4(2022)年3月31日現在

(資産の部)	千円	(負債の部)	千円
固定資産	32,754,633	固定負債	19,140,804
水道事業有形固定資産	32,072,013	企業債	18,003,928
水道事業有形固定資産	68,341,045	退職給付引当金	1,136,876
減価償却累計額	△36,269,032		
温泉事業有形固定資産	362,713	流動負債	1,901,385
温泉事業有形固定資産	718,304	企業債	1,195,800
減価償却累計額	△355,591	未払金	598,860
売電事業有形固定資産	315,616	前受金	1,070
売電事業有形固定資産	452,647	賞与・法定福利費引当金	75,275
減価償却累計額	△137,031	その他(預り金等)	30,380
投資その他の資産	4,291	繰延収益	3,177,997
投資有価証券	1,000	長期前受金	8,024,022
出資金	3,291	収益化累計額	△4,846,025
流動資産	3,629,055		
現金預金	3,095,465	負債合計	24,220,186
未収金	533,590		
未収金	541,830	(資本の部)	
貸倒引当金	△8,240	資本金	9,724,073
		剰余金	2,439,429
		資本剰余金	254,792
		利益剰余金	2,184,637
		当年度末処分利益剰余金	2,184,637
資産合計	36,383,688	資本合計	12,163,502
		負債資本合計	36,383,688

# 令和3(2021)年度企業局各会計予算の概要について

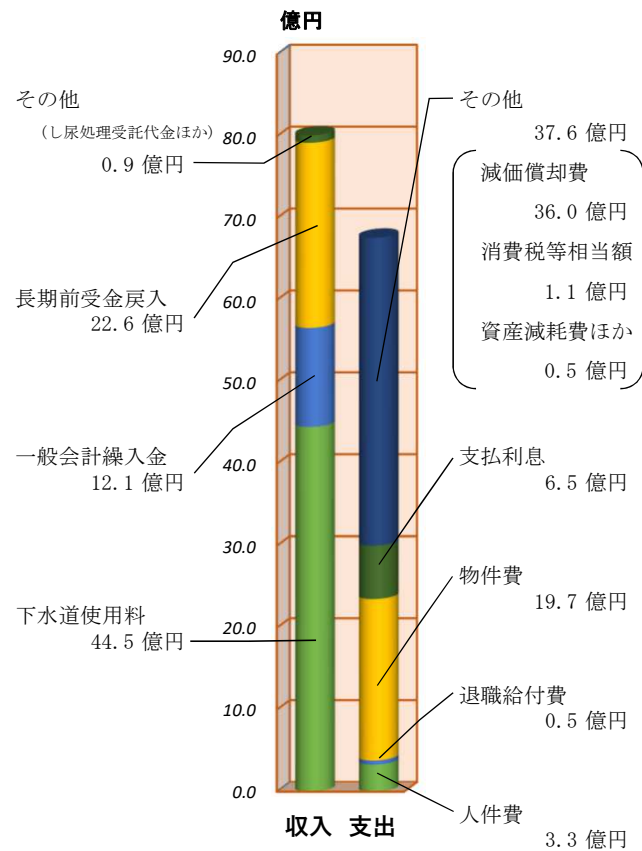
## 公共下水道事業会計

### 業務の予定量

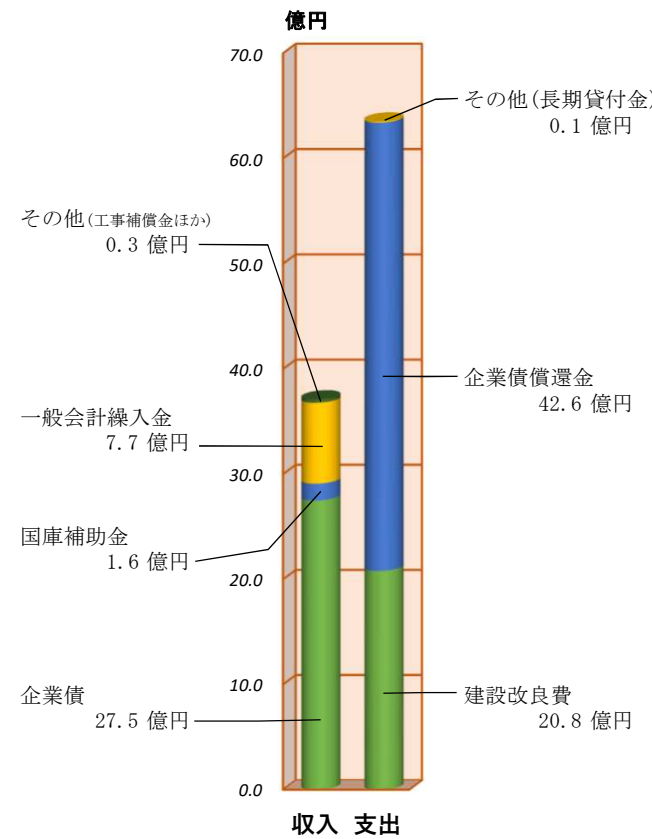
1 排水戸数	117,094 戸	(対前年度比 0.6 %減)
2 年間総排水量	25,767,000 m <sup>3</sup>	(対前年度比 2.2 %減)
3 一日平均排水量	70,600 m <sup>3</sup>	(対前年度比 2.2 %減)
4 主要な建設改良事業		

○ 管渠事業 下水管渠	3,584 m	<u>1,008,731 千円</u>
○ ポンプ場事業 湯川ポンプ場電気計装設備ほか	一式	<u>346,319 千円</u>
○ 処理場事業 汚水処理施設ブロウ機械設備ほか	一式	<u>600,648 千円</u>
○ その他		<u>123,604 千円</u>

### 収益的収入及び支出



### 資本的収入及び支出



収益的収入合計	80.1億円	資本的収入合計	37.1億円
収益的支出合計	67.6億円	資本的支出合計	63.5億円
差引(A)	12.5億円	差引(B)	△26.4億円
(純損益)	11.1億円)		
損益勘定留保資金(現金外費用等)(C)	14.1億円		
前年度末財源残額(D)	20.2億円		
当年度財源過不足額(E=A+B+C)	0.2億円		
当年度末財源残額(F=D+E)	20.4億円		

### 経営ビジョンとの比較

(税込単位：百万円)

区分	R3経営ビジョン 財政計画(A)	R3当初予算 (B)	増減 (B)-(A)	
収益的収支	下水道使用料	4,446	4,453	7
	一般会計繰入金	1,168	1,213	45
	長期前受金戻入	2,091	2,263	172
	その他(し尿処理受託代金ほか)	78	87	9
	収入計	7,817	8,016	199
	退職給付費	332	337	5
	物件費	36	48	12
	支払利息	1,905	1,968	63
	その他	718	650	△68
	減価償却費	3,786	3,760	△26
	消費税等相当額	3,510	3,597	87
	資産減耗費ほか	179	110	△69
	資産減耗費ほか	97	53	△44
	支出計	6,779	6,763	△16
損益	1,005	1,253	248	
資本的収支	企業債	2,138	2,750	612
	国庫補助金	559	160	△399
	一般会計繰入金	786	769	△17
	その他(工事補償金ほか)	51	30	△21
	収入計	3,533	3,709	176
	建設改良費	1,833	2,079	246
	企業債償還金	4,261	4,260	△1
	その他(長期貸付金)	13	13	0
	支出計	6,106	6,352	246
	資本的収支不足額	△2,573	△2,643	△70
補てん財源	1,544	1,410	△134	
当年度財源過不足額	△23	21	44	
当年度累積財源残額	1,788	2,044	256	
当年度末企業債残高	46,546	47,766	1,220	

(注) 四捨五入の関係で、計と内訳とは必ずしも一致しません。

### 予定貸借対照表

令和4(2022)年3月31日現在

(資産の部)	千円	(負債の部)	千円
固定資産	95,037,909	固定負債	43,956,892
有形固定資産	92,758,296	企業債	43,512,373
有形固定資産	179,964,854	退職給付引当金	444,519
減価償却累計額	△87,206,558	流動負債	5,944,554
無形固定資産	2,257,897	企業債	4,253,561
投資その他の資産	21,716	未払金	1,659,675
出資金	9,927	賞与・法定福利費引当金	28,148
長期貸付金	11,789	その他(預り金等)	3,170
流動資産	3,737,966	繰延収益	38,081,093
現金預金	3,260,265	長期前受金	87,662,102
未収金	447,635	収益化累計額	△49,581,009
未収金	464,902		
貸倒引当金	△17,267		
短期貸付金	10,768		
短期貸付金	10,851		
貸倒引当金	△83		
他会計保管下水道使用料	19,298		
		負債合計	87,982,539
		(資本の部)	
		資本金	6,378,894
		剰余金	4,414,442
		資本剰余金	1,288,113
		利益剰余金	3,126,329
		当年度未処分利益剰余金	3,126,329
		資本合計	10,793,336
資産合計	98,775,875	負債資本合計	98,775,875

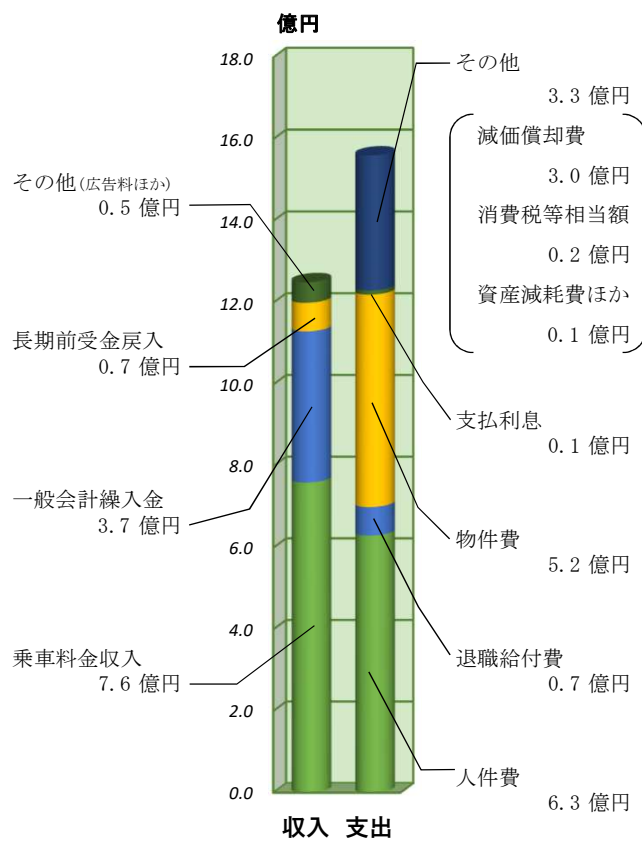
# 令和3(2021)年度企業局各会計予算の概要について

## 交通事業会計

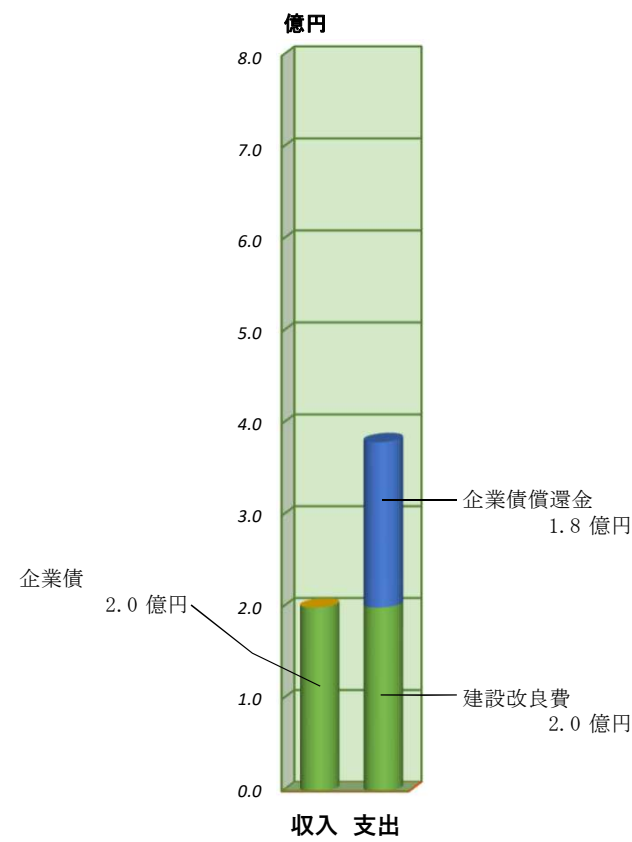
### 業務の予定量

1	車両数	32両	(対前年度比 増減なし)
2	年間走行キロメートル	936,510 km	(対前年度比 7.1%減)
3	年間総輸送人員	4,210,794人	(対前年度比 25.6%減)
4	一日平均輸送人員	11,536人	(対前年度比 25.6%減)
5	主要な建設改良事業		
	○ 軌道費	118,860千円	
	軌道改良	177.8 m	
	○ 電路費	15,651千円	
	電車線支持柱新設	2基	
	○ 車両費	65,425千円	
	車体改良	1両	

収益的収入及び支出



資本的収入及び支出



収益的収入合計	12.5億円	資本的収入合計	2.0億円
収益的支出合計	15.6億円	資本的支出合計	3.8億円
差引(A)	△3.1億円	差引(B)	△1.8億円
(純損益)	△3.3億円)		
損益勘定留保資金(現金外費用等)(C)	2.9億円		
前年度末財源残額(D)	1.3億円		
当年度財源過不足額(E=A+B+C)	△2.0億円		
当年度末財源残額(F=D+E)	△0.7億円		

### 経営ビジョンとの比較

(税込単位：百万円)

区分	R3経営ビジョン 財政計画(A)	R3当初予算 (B)	増減 (B)-(A)	
収益的収支	乗車料金収入	1,005	764	△241
	一般会計繰入金	361	368	7
	長期前受金戻入	99	71	△28
	その他(広告料ほか)	69	49	△20
	収入計	1,535	1,252	△283
	人件費	645	626	△19
	退職給付費	41	75	34
	物件費	528	521	△7
	支払利息	12	8	△4
	その他	374	334	△40
	減価償却費	332	296	△36
	消費税等相当額	42	19	△23
	資産減耗費ほか		19	19
支出計	1,599	1,564	△35	
損益	△64	△312	△248	
資本的収支	企業債	189	200	11
	国庫補助金	114		△114
	一般会計繰入金	86		△86
	その他(工事補償金ほか)	46		△46
	収入計	435	200	△235
	建設改良費	442	200	△242
	企業債償還金	180	178	△2
	その他			0
	支出計	621	378	△243
	資本的収支不足額	△186	△178	8
補てん財源	273	286	13	
当年度財源過不足額	23	△204	△227	
当年度累積財源残額	494	△73	△567	
当年度末企業債残高	2,402	2,354	△48	

(注) 四捨五入の関係で、計と内訳とは必ずしも一致しません。

### 予定貸借対照表

令和4(2022)年3月31日現在

(資産の部)	千円	(負債の部)	千円
固定資産	2,991,857	固定負債	2,700,990
有形固定資産	2,991,615	企業債	2,188,623
有形固定資産	8,924,716	退職給付引当金	512,367
減価償却累計額	△5,933,101	流動負債	377,250
投資その他の資産	242	一時借入金	80,000
出資金	242	企業債	165,254
流動資産	138,956	未払金	66,026
現金預金	15,288	前受収益	8,080
未収金	26,562	賞与・法定福利費引当金	47,711
商品	719	その他(預り金等)	10,179
貯蔵品	96,087	繰延収益	552,747
前払金	300	長期前受金	2,825,155
		収益化累計額	△2,272,408
		負債合計	3,630,987
		(資本の部)	
		資本金	382,657
		剰余金	△882,831
		欠損金	882,831
		当年度未処理欠損金	882,831
		資本合計	△500,174
資産合計	3,130,813	負債資本合計	3,130,813

## 上下水道事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R元)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
1 暮らしを支える 上下水道	(1) 水の確保 (P45)	① 水源域の 適切な保全	森林整備(整備面積24.4ha/3年)を実施したほか、水資源保全地域における土地利用状況を確認するなど、水源域の保全に向けた取り組みを進めました。	B	外資による森林の買収が横行していますが、当市の水源保安林の保全に遺漏はありませんか。	本市の水道水源は、「北海道水資源の保全に関する条例」に基づく水資源保全地域の指定を受け、土地売買等を行う場合には、事前に利用目的等の届出を行うことになっておりますので、土地取引の動向が分かる状況になっております。 また、本市におきましても、年に1回、指定地域の土地所有者を調査し、土地取引等の有無について確認しております。今後も、北海道と連携し水源域の保全に努めてまいります。
	(4) 水道施設 機能の保全 (P47)	① 老朽施設の 計画的な更新 と施設規模の 適正化	老朽配水管を更新(φ100～350mm L=8,300m/3年)したほか、将来の水需要を見据え浄水能力を見直すなど、老朽施設の更新と施設規模の適正化を進めました。	B	経年化対策実施(上下水道施設)におきまして、資機材の仕様の見直し、工事方法や調達方法の工夫等、効率化施策の検討・導入事例につきましてご教示願います。 併せまして、人件費を含めました支出における効率化施策につきましてもご教示願います。	水道管路施設につきましては、市内の給水実態に合った適正な口径の選定や、道路改良工事に併せ老朽配水管の更新工事を実施するなど、更新費用の縮減に努めております。 下水道管渠施設につきましては、管渠更生工法の採用により、工期短縮などの効率化を図っております。 また、事業の執行体制につきましては、これまで、処理場の運転管理や浄水場の夜間休日の運転管理を民間委託したほか、上下水道関連のワンストップサービスを提供する「函館市水道お客様センター」を民間委託により開設するなど、事業の効率化や市民サービスの向上に取り組む中で、組織体制の整備を進めてきたところですが、今後におきましても、経営環境の変化に迅速かつ柔軟に対応するため、簡素で効率的な組織体制の構築に努めてまいります。
2 災害に強い 上下水道	(1) 地震対策の 推進 (P54)	① 水道施設の 耐震化	老朽配水管の更新に併せて耐震化を実施しました。(耐震化延長 L=8,300m/3年)	B	ビジョンに主な指標として、浄水場耐震化率、配水池耐震化率、基幹管路耐震適合率、非耐震管更新率、雨水整備率のH27年度実績と10年後の見込みが示されていますが、現段階の進捗については、ややわかりづらいように感じました。	上下水道事業経営ビジョンに掲載している主な指標は、主要施策の進捗状況を定量的に示す数値であることから、年度毎に検証し、その結果を踏まえて取り組み状況の評価を行い、経営懇話会で報告しているところですが、現段階の進捗状況を分かりやすく示すため、各指標の進捗状況も併せて報告してまいりたいと考えております。(P12参照) また、上下水道施設の耐震化につきましては、今後も施設の更新に併せて進めてまいりたいと考えております。
		② 下水道施設の 耐震化	老朽管渠の更新に併せて耐震化を実施しました。(耐震化延長 L=3,629m/3年)	B	災害に対するものについて一番心配に思う。特に耐震化について全てを改善していくことは大変なことと思うが、そこはできる限り早めに対応をしていってほしいと思う。	
	(2) 浸水対策の 推進 (P56)	① 雨水管の整備	日吉町4丁目や昭和町などで雨水管を整備しました。(φ250～1200mm L=1,874m/3年)	B	今年、2度大雨により、亀田中学校前の産業道路が冠水被害により通行に支障が出ました。雨水対策を検討していただきたい。	近年、全国各地で局地的な大雨による浸水被害が多発しておりますが、本市におきましても、令和2年9月、短時間に強い雨が降ったことにより道路冠水などの被害が発生しました。 企業局では、雨水管の整備にあたり浸水頻度の高い地域や道路整備と同時施工が可能な箇所など、家屋等の被害状況や優先順位を勘案しながら進めておりますので、ご理解いただきたいと思います。

## 上下水道事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R元)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
2 災害に強い 上下水道	(3) 災害対応力の 向上 (P57)	① 災害対策 マニュアルと 訓練の 充実化	上下水道事業のBCPに基づく訓練を実施するとともに、BCPの内容を見直し充実化を図りました。	B	マニュアルや訓練が行われていることは、とても重要であり素晴らしいと感じた。  水道は住民の命の綱です。BCPの充実と訓練を怠りなくお願いしたいところです。特に人員面については、経済合理性を犠牲にしても対応力を維持してください。	上下水道BCPにつきまして、今後も訓練結果に基づき内容の適宜見直しや充実を図っていくほか、民間事業者との合同訓練の実施や他都市との合同訓練への参加など公民連携、広域連携を推進し、災害時の対応能力向上に努めてまいります。 また、組織体制につきましては、経営環境の変化に迅速かつ柔軟に対応するため、簡素で効率的な組織体制の構築に努めてまいります。
		④ 災害時資器材 の確保	災害時非常食や災害時資器材を充実させるなど、災害時に必要な資器材の確保に向けた取り組みを進めました。	B	国交省・内閣府より「マンホールトイレ整備を普及促進へ」と市町村に初通知が出ました。函館市でも是非、検討いただきたい。	本市では、マンホールトイレの導入につきまして、経費面などにおいて早急に整備することは難しいものと考えており、水を使用しない簡易トイレを市内の小・中・高等学校に配備しているほか、令和2年度には自動ラップ式トイレを購入し、指定緊急避難場所と指定避難所を兼ねている施設へ配備したところです。 また、避難が長期化してトイレが不足する場合には、現在、民間事業者と結んでいる協定により、供給される仮設トイレを活用し対応することとしております。
3 信頼される 事業運営	(1) 健全な 事業経営の 推進 (P58)	① 適正な 料金体系の 検討	将来の水需要の減少を見据え、料金体系に関する調査を実施したほか、賦課データを基にした実態把握調査を実施するなど、適正な料金体制の検討を進めました。	B	函館の上下水道料金が安定的なことについて、企業局の努力に心から敬意を払いたい。	企業局におきましては、給水人口の減少などによる料金収入の減少に対応するため、これまで事務事業・組織機構の見直しなどにより業務の効率化を図るとともに、人員削減による人件費の縮減を図ったほか、民間活力の積極的な活用を図るなどして支出を抑えてきたところであり、さらにはお客様の皆様のご協力の結果、このような安定した料金を維持できているものと考えております。 しかしながら、本市の水道事業、公共下水道事業は、拡張・普及の時代から維持管理の時代を迎え、老朽化した施設の更新に多額の費用がかかることが予想されることから、今後も安定的なサービスを提供していくためにも、上下水道事業経営ビジョンに基づき、引き続き効率的な事業経営に努めていかなければならないと考えております。
		③ コスト削減の 取り組みの推進	赤川高区浄水場プラント設備更新整備事業に係る民間活力の導入に向けた検討を進め、DBO方式で事業契約を締結、着手しました。	B	民間を活用したDBO方式での工事着手など、効率的な事業運営が行われていることは高く評価できるものと思いました。  「公民連携でめざす持続可能な水道事業運営」-技術情報誌(日立評論)-において、函館市における浄水場プラント設備更新および運転・保全管理業務の一括受託について詳細に述べられており、本事業が「先進的なモデルケースとなる可能性は高い」という指摘があった。 経営懇話会においても同様の報告があったところだが、重要な施策であるため、この件について様々なメディアを通じてもっと積極的に市民に対して広報すべきではないか、という印象をもった。従来、やや東部地区を含んだ広域的な取り組みである点の告知が不十分な印象もあるため、この点についても取り組みを強化すべきです。	赤川高区浄水場プラント設備更新整備等事業は、将来にわたり水の安全・安定供給を確保しつつ、効率的な施設運用を図ることを目的にDBO方式によってスタートした事業であり、今後も、公民連携のもと効率的な事業運営に努めてまいります。また、事業に関する内容や運営状況などにつきましては、市のウェブサイトや広報紙等を通じて、適切に情報発信してまいりたいと考えております。

## 上下水道事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R元)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
3 信頼される事業運営	(1) 健全な事業経営の推進 (P58)	⑤ 人材育成の推進	各種マニュアルの整備や職員研修の実施、外部団体主催研修への参加などにより、職員の能力開発に努めたほか、全国規模の会議において研究発表を行うなど、人材育成を推進しました。	A	外注部分の増加による人員削減にともない、技術レベルの低下ないし人材の枯渇が心配されるが。	長年の経験で培われてきた技術を、着実に次の世代の職員に継承するため、職場研修の実施や技術マニュアルの整備などに取り組んでいるほか、すべての所属におきまして、それぞれ継承が必要な知識・技術について意見交換を行いました。 また、民間事業者などに対する技術指導により、公民一体となった技術継承にも取り組んでおり、今後におきましても、技術レベルが低下することのないよう多面的に取り組むを進めてまいりたいと考えております。
	(2) 効率的な組織づくり (P59)	② 公民連携の推進による効率的な事業の運営	南部下水終末処理場の業務委託内容を拡大したほか、運転管理業務に係る民間事業者に対する技術指導や合同訓練を実施するなど、公民連携の推進による効率的な事業運営に向けた取り組みを進めました。	B	委託する民間事業者とは適度な緊張関係を保ち、癒着などと非難されることのないようお願いいたします。	職員の綱紀粛正および服務規律の確保につきましては、これまでも機会あるごとに周知徹底を図ってきたところですが、今後におきましても、利害関係者との不正の疑いをもたれることのないよう一人ひとりが職員としての自覚を持って行動することについて周知徹底してまいります。 なお、委託業者の業務内容および業務執行状況は、週間、月間、年間で履行監視を実施し、適切な業務の遂行に努めているところであり、今後とも公正な事業運営を行ってまいります。
	(3) 透明性の高い事業運営 (P60)	① 情報提供の充実	企業局だよりの発行やラジオ、市電広告による情報提供を実施したほか、マンホールカードの配付(17,300枚/3年)や水道創設130周年記念事業を実施するなど、情報提供の充実化を図りました。	B	市電を使ったPRや学校の体験学習等も市民への理解を深める努力を感じられる事例であり素晴らしいと感じていた。「企業局だより」も個人的に楽しみにしている。	企業局の各事業はお客さまからの料金や使用料を基礎に運営していることから、お客さまの各事業に対する理解や関心を深めていただくことは不可欠であると認識しております。今後も引き続き、企業局だより等による料金やコスト、安全性などの情報発信や次世代に対する啓発などに取り組んでまいりたいと考えております。
		② 利用者とのコミュニケーションの促進	小学生向けの上下水道施設見学会の開催や、水道創設130周年記念事業を実施したほか、経営懇話会を開催し意見を求めるなど、利用者とのコミュニケーションを促進し、市民ニーズを事業運営に反映させる取り組みを進めました。	B	函館市の上下水道は低料金で信頼性が高いサービスが提供されている。この事実を市民にもっとアピールし、将来へ向かって維持し充実させてゆくための投資について理解を求めべきではないでしょうか。 小学生向け見学会はよい取り組みだと存じます。子供のころ見聞した知識は人間形成に多大な影響があります。将来の函館市民として、あるいは企業局を担う人材として限らない可能性がありますので、継続して取り組んでください。	赤川高区浄水場プラント設備更新整備等事業につきましては、平成30年度第1回 経営懇話会の水道事業の概要説明のなかで、「工事の設計と建設および施設の運転管理を一体的に発注するDBO方式を採用すること、20年間の運転管理委託を含めた総事業費は約88億円であること、公募型プロポーザル方式により事業者を選定すること」など概略をご説明申し上げたところですが、当該事業が令和22年度末までの永きにわたり市民生活に深く関わる事業であることを踏まえ、より詳細なご説明の必要性もあつたと考えていることから、今後は、一層の情報提供の充実に努めてまいります。

## 上下水道事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R元)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
4 環境対策の推進	(1) 環境負荷の低減 (P61)	① 省エネルギー対策の推進	浄水場などの施設照明のLED化や、南部下水終末処理場における省エネルギー型設備の導入によりCO2排出量を削減しました。(削減効果264t/3年)	B	取り組まれている施策はすべてからず当を得たものと思いますが、最大の環境負荷を生じさせている合流式管路は改善されないのですね。	企業局では、国が定める方針に従い汚濁負荷量が分流式下水道と同程度となる「合流式下水道緊急改善計画」を策定し、国の承認を受けた後、平成17年度から平成25年度において、合流式下水道の緊急改善事業を実施しております。 工事完成後は、分流式下水道と同程度であると国が定める管理基準(雨天時(10mm/h～30mm/h) BOD 40mg/ℓ以下)を維持しております。今後におきましても、適正な維持管理をしながら、公共用水域の水質保全に努めてまいります。
		② 資源の有効活用の推進	小水力発電設備による安定した発電(4,661千kWh/3年)を行ったほか、南部下水終末処理場で発生する消化ガスについては発電やボイラーの燃料として利用し、下水汚泥の乾燥ケーキは一部肥料化するなど、資源の有効活用に向けた取り組みを進めました。	B	世界的にも日本は遅れている分野。資源を活用するのは地域が率先して考えていくべきと常々感じている。そこで重要なのは、未来にとってそれが「負」の要素があってはならないということ。現在行われている事以外にも考えていくべき分野と思うし、伸びしろもあるように思える。	

A : 完了した・計画を上回っている

B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている

D : 著しく計画を下回っている

— : 評価なし



## 交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン 該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R元)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
安全で 1 信頼される 公共交通	(1) 安全性の 向上 (P28)	① 施設の 計画的な 改良・更新	電車停留場安全地帯へのス ロープ設置、電路の改良、軌道 の改良、軌道分岐器の更新な どを実施しました。 (軌道改良延長 L=491m/3年)	B	<p>電車停留場安全地帯が徐々に改修されており安全性の部分で向上していると感じる。また、障がい者や老人への考慮もされており、とてもいいと思う。</p> <p>線路の道路の凸凹が歩行者・自転車・自動車についても危険をいつも感じる。なかなか難しい事は承知しているが改善して欲しい。</p> <p>線路の継ぎ目を通過するときの”ガタン”という音が異常に大きな箇所があります。また季節によっては硬質ゴム部分が凍上と思われる変形が目につきます。安全上問題はないのでしょうか。</p>	<p>道路の凹凸につきましては、軌道改良工事を施工することで解消できますが、予算や業者の施工能力の制約により、工事の進捗に時間を要しております。そのため、随時、アスファルト合材による穴埋補修により、段差等の解消工事を実施しておりますが、積雪寒冷地という条件の下、効率的な施工が図られない状況となっております。今後におきましても、横断歩道を優先的に可能な限り補修を行い安全確保に努めてまいります。</p> <p>レール継ぎ目部の隙間は、可能な限りレール頭頂部の溶接を行っておりますが、完全な凹解消には至りません。また、仮に隙間が開いても、継ぎ目板を締結しており、安全上は問題ありません。近年では鉄道におきまして、「伸縮継目」と呼ばれる技術が開発され振動や騒音の低減が図られていることから、このような新しい技術の開発状況を注視し、導入の検討をしてみたいと考えております。</p> <p>また、硬質ゴムの変形箇所につきましては、毎日の巡回により電車の走行に支障があると判断した箇所について、補修等を行い安全確保に努めております。</p>
		③ 安全管理 体制の強化	安全方針や安全重点施策を策 定し、訓練や研修を定期的 に実施するなど、運輸安全マ ネジメントを推進しました。	B	<p>ここ数年、脱線事故は発生していませんが、安全運行は何物にも勝る最重要の義務です。脱線事故が多発し旧運輸省から特別指導を受けた歴史を忘れず、たとえ日が当たらなくても、地道な努力を継続してください。</p>	<p>今後も、訓練・研修や内部監査の実施等により、安全意識の向上を図り、更なる安全管理体制の強化に努めてまいります。</p>
便利で快適な 2 輸送サービ スの提供	(1) 快適性の 向上 (P30)	① 車両の更新・ 改良	超低床車両1両を導入したほ か、8両の車体改良を実施し ました。	B	<p>昨年も申し上げたが、古い車両は古い車両で味があり、函館の風景とも合う。新しいものと古いものとそれぞれの良さを生かして欲しい。</p>	<p>古い車両の部品供給が難しく、現状のまま運行をして行くのは難しい状況ですが、車体の形状はそのままに、動力部分をリニューアルして、運行を継続できないか、引き続き、検討してみたいと考えております。</p> <p>また、バリアフリーの観点から今後も超低床電車の導入を進めていきたいと考えております。</p>
		② 職員の 接客マナー の向上	接客研修を実施したほか、イン バウンド接客研修会に参加す るなど、接客マナーの向上に 向けた取り組みを進めました。	B	<p>職員の接客マナーはインバウンド対応を含めて、利便性について公共交通の中で先進的に努力していると感じる。</p>	<p>今後も、接客の向上に向けた研修や関係事業者が開催する研修会への参加など、ソフト面でも一層の向上が図られるよう、引き続き取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>
	(2) 利便性の 向上 (P31)	① 情報発信の 強化	電車内の液晶ディスプレイを利 用した情報発信を実施したほ か、車内放送の多言語化の充 実を図るなど、情報発信の強 化に努めました。	B	<p>ICAS-nimocaは交通系ICカードとして全国共通で、カード決済などお買い物にも使えますと利便性をもっとアピールし普及につなげてください。</p>	<p>ICAS-nimocaの導入により、商業系での利用にも広がるなど一定程度の寄与はできたものと考えていますが、今後も、事業者間で連携を取りながら、一層の普及に努めてまいります。</p>

## 交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン 該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R元)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
2 便利で快適な 輸送サービスの提供	(2) 利便性の 向上 (P31)	② ICカード システムの 活用	IC定期券の運用を開始し、更なる利便性の向上を図りました。(ICAS-nimocaカード 令和元年度末発行枚数 86,068枚)	B	ICカードのポイント交換機設置場所が増え、利便が向上しました。 シエスタのような市民が立ち寄りやすい場所の一階に設置できた効果は大きいと思います。	今後も、利用状況等も踏まえながら、利便性の向上に努めてまいります。
		③ 乗客需要 に見合った 適切な運行 本数の確保	乗客需要の調査を実施したほか、繁忙期に増車運行を実施するなど、適切な運行本数の確保に努めました。	B	交通事業は、電停の案内表記や運転手さんの接遇、ICカード導入、コロナ対策など、十分な企業努力をされていると思います。強いて言えば、比較的利用の少ない時間帯の電車について、もう少し減便の余地があるのではないかと感じます。  コロナ禍で、乗客が減少していると思いますが、「密」を避けるためには採算性が低下しても通常通りの運行本数の確保が必要です。	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年度においては、乗車率が大きく落ち込む中、4月から、9時頃から16時頃までの日中時間帯の運行を従前の6分間隔から7分間隔に変更しているところです。一方、混雑が見込まれる通勤・通学時間帯においては、混雑緩和のため増発運行を行っております。 今後も状況に合わせた適宜・適切な運行に努めてまいります。
		④ 料金体系 についての 調査研究	乗り継ぎ割引制度を導入したほか、IC定期券導入へ向けて、割引率や期間などの見直しについて検討を進めました。	B	カードデータは宝の山です。活用はどんどん進めてください。ただし個人情報の保護には十分に配慮し、データの外部提供ないし販売には慎重な判断が必要です。	今後、ICデータ、ODデータの解析により、詳細の利用動向調査を進め、また、乗客のご意見等を踏まえながら、利用拡大に向けてお客様ニーズの把握に努め、引き続き、調査・研究を進めてまいります。
3 まちや地域 への貢献	(1) 地域社会 への貢献 (P32)	① 地域を支える 取り組みの 推進	地域のイベントなどに協力した増車運行を実施したほか、中心市街地活性化事業により、松風町、千代台の停留場を改良するなど地域を支える取り組みを進めました。	B	今年10月貸切り電車のイベントに参加したが、市電と函館の要素を上手に考え当日は別のイベントでもう1台貸切り電車が出ていたが、支障なく楽しめて素晴らしいと思った。学生やサークルや倶楽部等、観光客にもお勧めしたいと感じた。もっと広められると思う。 また、運転手が停留場に停まっている際、少し現場的なガイドをしてくれたのもよかった。 修学旅行等があると湯の川電停に朝早くから誘導員が蛍光色の上着を着て誘導している。他のイベントの際も同様だと思うが、いつも目にするこの光景は、地域のため人のための素晴らしい取り組みとっており、頭が下がる思いで見ている。  現在の路線が、人口分布などの現状に合わなくなってきています。過去に何度も議論されたことではあるのですが、今一度路線延長など積極的な対応を検討してみてもどうですか。	利用する皆様に喜んでいただけるよう接遇の向上に努めるとともに、混雑緩和の立哨案内など、ソフト面におきましても一層の向上が図られるよう、引き続き取り組みを進めてまいりたいと考えております。 また、530号車およびアミューズメントトラム(501号車)でのイベントなどの多目的利用を促進してまいりたいと考えております。
		② 人にやさしい 公共交通へ 向けた取り 組みの推進	超低床車両を導入したほか、安全地帯へのスロープ設置、停留場をバリアフリー対応に改良するなど、人にやさしい公共交通へ向けた取り組みを進めました。	B	富山市をはじめ、世界的にも二酸化炭素排出量の少ない路面電車は見直されています。路線の充実を重ねてお願いするところであります。	函館市における公共交通網は、鉄道・市電を基軸として、主要な道路にはバス路線が組み込まれたものとなっております。市電の路線延伸については、企業局のみの対応だけでなく、他の事業者や関係機関を含めた市全体としての総合的な協議検討に加え、新たな施設整備等に多大な投資が必要となります。 このような状況の中において、他の公共交通との役割分担や既存事業者に対する影響を考えますと、高いハードルがあるものと考えております。

## 交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン 該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R元)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
4 経営基盤の強化	(1) 収益力の向上 (P33)	① 市電の利用促進	旅行代理店への営業を行ったほか、車内放送の多言語化の拡充や利用促進に係るチラシを各戸に配付、新しい乗車券の販売試行や新たな販売方法の開発などの利用促進に向けた取り組みを進めました。	B	市電に関してはいつも利用しているので、目に見えてソフト面・ハード面でも利用促進に対するの努力を感じており、リスペクトに値する。  「令和元年度事業概要」(1)増収対策「ア 修学旅行生等乗車券販売の推移(172頁)」と「イ 広告料の推移の表(173頁)」のいずれについても緩やかな減収傾向にあります。さまざまな営業努力を重ねている事について経営懇話会において報告され、評価においても「B」となっております。 少子高齢化と自家用車社会の定着という社会情勢の中で、長期にわたる営業努力の成果で「緩やか」になっていることは理解できるが、このままの減収傾向が続く状況には大きな課題がある。 収益向上につながるサービス提供の電子化等々、様々な施策について調査を進め、積極的な導入を強化すべきです。	今後も長期にわたり人口の減少が見込まれ、さらには少子高齢化も一層進み、減収傾向が継続することが予想されるため、いつでもどこでも購入可能なデジタルチケットである「スマホ市電24時間券」や「ナイトラムチケット」の試行など、新たな需要創出につながるサービス等の調査研究を進めておりますが、引き続き一層の利用促進を図ることに努めてまいります。 また、長期的なスパンで市電利用者の安定的な確保を図るため、沿線における居住人口の確保、また都市機能施設(公共公益施設・企業等)の誘導など、まちづくり施策との連携を進めてまいりたいと考えております。
		② 効率的な組織づくり	他都市の民間への委託内容を調査したほか、各課の業務分析の実施など、効率的な組織体制の構築に努めました。	B	車両整備技術を持つ職員の高齢化と技術継承について対策はお持ちですか。	車両整備を担当する職員は、主査以下7名であり、5名が40歳代以上、2名が採用から3年以内の20歳代の若手職員となっております。 特別な技能を要する重要な修繕作業は、既に外注化しておりますが、職員が担当すべき検査や故障診断および修繕計画に必要な技術と知識は、専門機関や業界団体による研修、同業他社からの情報収集、先輩職員によるOJTにより継承する方針です。

A : 完了した・計画を上回っている

B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている

D : 著しく計画を下回っている

## 函館市上下水道事業・交通事業経営ビジョンにおける主要施策以外に対するご意見・ご質問

主題	ご意見・ご質問	ご意見・ご質問に対する企業局の考え方
<p>上下水道・交通事業における2020年実績および業績見通しについて</p>	<p>各事業における2020年度財政計画が記載されておりますが、コロナ禍による水道料金、下水道使用料、乗車料金収入への影響が大きいと思われれます。至近(第二四半期など)における実績につきましてご教示願います。</p> <p>また、至近実績を受けた2020年度の収入見通しや、支出の計画変更を含めた業績見通しにつきましてご教示願います。</p>	<p>水道料金、下水道使用料および乗車料金につきましては、いずれもコロナ禍による観光客減少などの影響を受け、特に第1四半期への影響が大きく、その後、回復傾向が見られたものの、11月頃から全国的に感染の広がりが見られるなど、今後の予測が困難な状況にあります。</p> <p>このような中、各収入の4月から9月までの実績(税抜き)につきましては、水道料金で、約18億8,000万円(対当初予算95.6%)、下水道使用料で、約20億円(対当初予算96.2%)、乗車料金で、約2億4,000万円(対当初予算47.8%)となっております。</p> <p>2020年度通年での収入見通しにつきましては、今年度実績と前年度実績との減少率などを勘案し、水道料金で、約37億9,000万円(対当初予算96.6%)、下水道使用料で、約40億3,000万円(対当初予算97.1%)、乗車料金で、約5億3,000万円(対当初予算57.6%)を見込んでおります。</p> <p>また、支出の計画変更につきましては、水道事業会計および公共下水道事業会計のいずれも料金収入の減額に伴う支出の計画変更は考えておりませんが、交通事業会計につきましては、乗車人員の減少に合わせ、運行間隔を6分から7分間隔とし減便を行ったほか、箱館ハイカラ號を運休するなど支出をできる限り抑えているところであります。</p> <p>これらを踏まえた業績見通しにつきまして、当初予算で見込んでいた純損益との増減で申し上げますと、水道事業会計では、約1億2,000万円純利益が減少、公共下水道事業会計では、約9,000万円純利益が減少、交通事業会計では、当初予算の時点で純損失を計上しており、この純損失が約3億6,000万円増加するものと考えております。</p>
<p>上下水道事業における自動検針の検討状況について</p>	<p>水道の自動検針につきまして、お客様サービス向上等の観点から、スマートメーター導入の検討を行っている自治体もあると聞いておりますが、函館市の検討状況等、今後の方向性についてご教示願います。</p>	<p>スマートメーター導入につきましては、北海道電力や量水器メーカーが行っている実証実験について、随時、情報をいただいております。コスト的に割高であることや、積雪寒冷地での導入ということで技術面でも解決されるべき課題はございますが、引き続き情報収集に努めるとともに、先進事例の調査なども行い、時代の変化に対応できるよう、導入に関する知識・ノウハウを蓄積してまいりたいと考えております。</p>
<p>上下水道の技術の進歩について</p>	<p>昨年上下水道の技術の進歩について体験させてもらう機会があり、多方面の分野で安心して安全でコストを考慮した将来的な上下水道対策が国内の企業で考案されており、素人でもその技術力の高さに心が躍った。それらはこれから5年後、10年後の整備となっていくものと思うが、そういうことを知り、そういう改善・向上が成されていくことを思い描くと楽しみに思えた。</p>	<p>令和元年11月に函館市におきまして、産・学を含めた全国の水道関係者が一堂に会する「日本水道協会全国会議」、最新の資機材が展示される「水道展」が開催されました。企業局の職員はもとより、地元の水道関係者、工業高校の生徒や高専の学生など多くの方が参加し、水道に関わる最新の知見に触れる貴重な機会となりました。</p> <p>今後におきましても、様々な機会をとらえて職員に日々進歩する技術を習得させるなど人材の育成に努め、災害に対して強靱なライフラインを目指してまいりたいと考えております。</p>

## 主な指標の進捗状況

### 上下水道事業経営ビジョン

基本方針	施策目標	主要施策	計画最終年（R8）における 主な指標の目標値	H27 当初の 水準	目標水準 （R1）	取組状況 （H29～ R1）	目標水準 達成状況	備考	
1. ぐらしを支える 上下水道	(6) 下水道の 普及促進	①汚水管の整備	処理人口普及率 （処理人口／行政人口×100）	90.2%	90.7%	90.7%	100%		
			浄水場耐震化率（水道） （耐震化された浄水施設能力 ／全浄水施設能力）×100	15.6%	79.9%	---	---	R1は赤川高区浄水場ろ過施設等 建設工事着手（R2終了予定）	
2. 災害に強い 上下水道	(1) 地震対策の 推進	①水道施設の耐震化	配水池耐震化率（水道） （耐震化された配水池容量 ／全配水池容量）×100	8.9%	48.8%	---	---	工事着手はR2以降	
			基幹管路耐震適合率（水道） （耐震化された基幹管路延長 ／全基幹管路延長）×100	54.9%	59.2%	54.9%	55.1%	100%	
		②下水道施設の耐震化	非耐震管更新率（下水道） （耐震化された管渠延長／ 耐震性のない管渠総延長） ×100	9.7%	26.8%	14.4%	14.0%	97%	入札不調などによるもの その分は次年度に発注
			雨水整備率 （雨水整備面積／事業計画面積） ×100	58.9%	59.7%	58.7%	58.7%	100%	